

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：32683

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K17867

研究課題名(和文) 政党の分極化の国際比較 「分極化するアメリカ」から「世界の分極化の比較分析」へ

研究課題名(英文) Comparing ideological polarization

研究代表者

久保 浩樹 (Kubo, Hiroki)

明治学院大学・法学部・講師

研究者番号：40789559

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：政党システムのイデオロギー的分極化は、世界各国で、どのように、なぜ、異なっているのだろうか？これが、本研究で解明する課題である。アメリカの分極化の一国研究は数多いのに対し、分極化を比較論的に分析する研究は少ない。そこで本研究では、現代アメリカで進行しているとされるイデオロギー的分極化を、アメリカ固有の現象としてみなすのではなく、世界各国に共通して見られる普遍的な現象として理解することを目標として、多国間比較分析と計量的手法を用いて分析することを目標とした。政治的対立を特殊一国的な現象として理解ではなく、各国との比較の中で論じることを可能にするという意味で、政治学全般にも貢献しうると考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

また、政党のイデオロギー的対立の激化は、政治的妥協を困難にさせ、政策過程の停滞や政治不信の増大にもつながるとされている。アメリカの国内における政治対立の激化や政策の停滞は、日本を含む世界全体の国際政治に大きな影響を与える。それゆえに、アメリカの分極化の原因を解明することはアメリカの理解にも世界政治や日米関係の理解にも必要不可欠であると考えられる。

研究成果の概要(英文)：What is the patterns of party ideological polarization? How and why are the patterns of polarization different across countries? While there are lots of research on polarization in American politics, a few researchers analyze party ideological polarization from comparative perspective. In this research project, I conduct cross-national analysis of party ideological polarization by using cross-nationally comparable dataset. This research project can contribute novel understandings of polarazation to both American and comparative politics.

研究分野：比較政治学

キーワード：分極化 イデオロギー 政党 アメリカ政治 サーベイ 計量分析 選挙研究 議会研究

1. 研究開始当初の背景

政党システムのイデオロギー的分極化は、世界各国で、どのように、なぜ、異なっているのだろうか？これが、本研究で解明する課題である。分極化 (polarization) とは、主として現代アメリカ政治において、民主党がリベラル化し、共和党が保守化することで、二大政党のイデオロギー的距離が拡大していく現象を表す言葉として用いられる。民主党と共和党のイデオロギー的対立の激化は、政治的妥協を困難にさせ、政策過程の停滞や政治不信の増大にもつながるとされている。アメリカの国内における政治対立の激化や政策の停滞は、日本を含む世界全体の国際政治に大きな影響を与える。それゆえに、アメリカの分極化の原因を解明することはアメリカの理解にも世界政治や日米関係の理解にも必要不可欠であると考えられる。これまでアメリカの分極化については、日本でもアメリカでも数多くの研究者が研究に取り組んできた。しかしながら、既存のすべてのほとんどの研究は、アメリカ一国を集中的に取り上げ、分極化を特殊一国的な現象として、アメリカ一国のみを対象に理論的・統計的・歴史的に分析するものが大半であった。それに対し、アメリカの分極化を他国との比較の観点で分極化を論じたものはほとんど皆無である。そこで、(1) アメリカの分極化がどのように他国と異なっていて、どの程度国際比較の観点から深刻なのか？(2) 分極化は世界各国でどのように異なっていて、その分極化の程度の違いは何によって生じるのか？という以上の二つの問いを比較の視座から明らかにした。

2. 研究の目的

政党システムのイデオロギー的分極化が、本研究の課題であるが、より具体的には(1) 有権者のイデオロギー的分極化の国際比較、(2) 政党のイデオロギー的立場の分極化の国際比較、(3) アメリカの50の州レベルの分極化の地方政治比較、という三つの観点から、アメリカの分極化を「外」と「内」から分析する。前二者は、アメリカとアメリカ以外の国家との国際比較による分極化の分析である。具体的には、先述した多国間の有権者サーベイを用いた政党の分極化と有権者の分極化を従属変数とし、国家レベル、政党レベル、個人レベルという三つのレベルの要因という独立変数からエリートと有権者双方の分極化を分析し、アメリカをその中に位置付ける。このことにより、分極化が特定の国家や社会構造から生ずるのか、それともエリートや政党の行動、ないしは有権者や大衆レベルから生じる現象なのか、データから明らかにすることができる。最後の三つ目として、アメリカ内部の州という地方政治の単位を比較する観点から分極化を明らかにする。上記の多国間比較の結果をもとに、アメリカの州・地方政治レベルの分極化も同様に分析し、アメリカ内部の分極化にも、比較政治の知見を応用して分析を深める。すでに、下院議員のイデオロギー的分極化を分析したが、同様に上院、州知事、州議会議員など連邦と州の相互作用も含めてアメリカの地方政治の分極化を比較論的に考察した。

3. 研究の方法

政党政治のイデオロギー的分極化をアメリカを含めて国際比較をするのが本研究の最大の目標である。この課題の最大の難点は、左右のイデオロギー対立軸の意味付けや解釈が人により異なっている中で、どのようにして国際比較可能なイデオロギー的尺度を作り出して比較するのか？という点である。筆者はすでに海外の共同研究者と共に、有権者サーベイを用いて国際比較可能な、有権者のイデオロギー的位置の推定に成功した。国際的な有権者サーベイである Comparative Study of Electoral Systems (CSES) を用いて、先進国、発展途上国双方を含めた40カ国以上の政党と有権者のイデオロギーを国際比較可能なかたちで数量化し、さらに、各国の有権者の左右イデオロギーの認知バイアスの除去に成功した。本課題では、この分析結果をもとに、さらにこの研究を発展させ、政党と有権者それぞれの分極化の国際比較という課題にこの研究成果を応用する。

また本研究の特色として、海外の研究者との協力体制をもとに研究を進める、ということが挙げられる。具体的には、アメリカのライス大学教授ロバート・シュタイン (Robert Stein)、イギリスのエセックス大学教授ロイス・キャロル (Royce Carroll)、ドイツのマンハイム大学のポストドク研究員ニック・リン (Nick Lin) と緊密な連携のもとに研究を進めた。シュタイン教授はアメリカ政治、選挙や都市政治の専門家であり、アメリカの分極化について助言を受けつつ、アメリカの地方政治や選挙データの構築で協力をえている。キャロル教授は比較政治が専門であり、本研究の基づく論文を共同執筆している。すでに執筆した論文のデータ収集や分析を共同で行い、成果が共有されている。今後も引き続き共同して研究作業を進める予定である。またリン研究員とは、アメリカの州議会のデータの構築作業を協力して進めている。アメリカの州政治も多国間の国際比較も、データ構築に膨大な時間がかかり、日本においては研究がはかどりにくい場合があるが、本研究にはその心配はなく、必要に応じて米英独の共同研究者から支援が得られる体制をすでに整えていることができ、円滑に海外の研究者と協力関係を築き、研究を進めた。

4. 研究成果

アメリカ政治が分極化していることは広く知られている。またその分析も日米の研究者が数多く行っている。しかしながら、アメリカの分極化が他国とどのように違っているのか？何が各国ごとの分極化の程度の違いをもたらすのか？という研究はほとんどない。その点で独創的である。本研究の最大の特徴は、比較政治とアメリカ政治の融合的研究であるという点である。アメリカ政治はアメリカ自体が巨大な国家であり、アメリカ政治分析自体が大きなディシプリンであったために、アメリカ政治分析と、多国間比較政治分析との交流が薄かったと思われる。本研究では、アメリカ政治を比較政治の一部として位置付け、アメリカ政治の知見を比較政治に拡張し、さらにアメリカ政治の理解にも役立つように、アメリカ政治と比較政治双方を分極化という共通の視点で分析した。このようなアプローチは未だに少なく、幅広い分野に貢献できる。分極化はそれ自体は、政党間のイデオロギー的差異が拡大することであるが、それ自体は日本の政党政治でも経験してきたことであり、現代日本の政治の理解にも役立つであろう。また、アメリカの分極化の原因を比較政治的に理解することは世界政治に大きな影響力を与えるアメリカの内政のより深い理解、さらには内政から影響を受ける外交の理解にもつながるだろう。

本研究期間を通じて、海外学術雑誌に4本の論文を掲載し、13回の国内外の学会発表を行い、これらの研究成果を公にした。“Explaining Citizen Perceptions of Party Ideological Positions: The Mediating Role of Political Contexts.” (with Royce Carroll) *Electoral Studies* 51 (2018) 14-23. においては、有権者が政党の政策をどの程度知っているのかを解明することは、有権者の投票選択の前提条件をなす重要な構成要素であるにもかかわらず、未解明の領域である。本論文では、有権者の政党に関する政策位置の方向感覚の程度を政治的知識として数量化し、その規定要因の解明を試みた。分析の結果、教育や社会経済階層といった個人レベルの要因に加え、民主主義の経験の程度、政党システムにおける恩顧主義の浸透やイデオロギー的分極化の深刻さといった構造的要因が、有権者の政党の政策位置に関する知識の増減に影響をもたらすことを明らかにした。

“Measuring and Comparing Party Ideology and Heterogeneity.” (with Royce Carroll) *Party Politics* 25 (2), (2019) 245-256. においては、政党の政策位置をマニフェストや専門家サーベイを用いて測定することは広く行われている。しかしながら、政党の内部の組織の多様性を測定することは未だに未解明である。ここではヨーロッパ13カ国の政治家の個人レベルの政策争点を一括して分析し、政党ごとの組織内部の政治家のイデオロギー的多様性を数量化した。さらに分析の結果、選挙制度、政党の候補者選出過程、政党の選挙における政策争点志向が、政党の内部のイデオロギー的多様性をもたらすことを明らかにした。

“Polarization and Ideological Congruence between Parties and Supporters in Europe.” (with Royce Carroll) *Public Choice* 176, 1-2, (2018) 247-265. においては、有権者と政党の政策的な一致性をサーベイデータと専門家調査データを用いて明らかにした。とりわけ分極化というコンテキストと、有権者の教育水準という二つの役割に着目した。結果として、有権者のサーベイデータの政策に関する質問項目から得られた結果は、分極化は政策的な一致性を低めるものの、有権者の教育水準がそれを高めるということが明らかになった。しかしながら、左右イデオロギーからはそのような関係は見いだすことができなかつた。このことは測定の問題が、有権者と政党の間の政策的な一致性にとって非常に重要な役割を果たしていることを意味している。

“The Logic of Delegation and Institutional Contexts: Ministerial Selection under Mixed-Member Systems in Japan” *Asian Journal of Comparative Politics* 4 (4), (2019) 303-329. においては、いかなる議員が大臣として選出されやすいのかというものである。より詳しく言えば、選挙制度と議会制度が、どのようにして大臣選出過程における委任の論理を歪めるのか、ということ論じる。理論的には、候補者中心の選挙制度と二院制は、本人・代理人関係において、代理人の複数化を招き、議院内閣制における委任と説明責任の論理を複雑化させ、本人の代理人へのコントロールから逸脱するエージェンシー・ロスの可能性を高める。経験的には、この2つの制度的文脈が、政党指導者の大臣ポストの分配に対する戦略を変化させる可能性を論ずる。データの側面から述べれば、2003年から2014年までのエリートサーヴェイデータから抽出された理想点推定を用いて、日本の閣僚ポスト配分データを議員個人レベルのデータで分析する。分析結果を述べるならば、政党中心の選挙制度を取っている衆議院においては、政党指導者へのイデオロギー的接近性が、大臣への選出確率を高めることが明らかになった。この結果は、小泉政権を除いた短命政権の首相が続いた時期に区切っても同様の結果を示した。このことは、首相を中心とした閣僚配分とリーダーシップが小選挙区比例代表並立制の下では貫徹していることを示唆する。それとは対照的に、候補者中心の選挙制度が主の参議院においては対照的な結果を示した。政党メディアンから遠ざかるイデオロギー的なアウトライアーがより閣僚配分に預かる可能性が高まるのである。このことは、首相と参議院との間で委任と説明責任の連鎖が断ち切れているために、政党の一体性を維持するためにより党内でイデオロギー的に周辺的な立場にいる議員に配慮せざるを得ない結果であると考えられる。結論として、政党中心の選挙制度は政党と内閣のイデオロギー的一体性を高め、候補者中心の選挙制度は政党と内閣のイデオロギー的な一体性を低めることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Kubo Hiroki	4. 巻 4
2. 論文標題 The logic of delegation and institutional contexts: Ministerial selection under mixed-member systems in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics	6. 最初と最後の頁 303 ~ 329
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1177/2057891118811686	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Carroll Royce, Kubo Hiroki	4. 巻 51
2. 論文標題 Explaining citizen perceptions of party ideological positions: The mediating role of political contexts	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Electoral Studies	6. 最初と最後の頁 14 ~ 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1016/j.electstud.2017.11.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Carroll Royce, Kubo Hiroki	4. 巻 176
2. 論文標題 Polarization and ideological congruence between parties and supporters in Europe	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Public Choice	6. 最初と最後の頁 247 ~ 265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1007/s11127-018-0562-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Carroll Royce, Kubo Hiroki	4. 巻 25
2. 論文標題 Measuring and comparing party ideology and heterogeneity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Party Politics	6. 最初と最後の頁 245 ~ 256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1177/1354068817710222	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 久保浩樹
2. 発表標題 専門家調査を用いた日本の政党の政策位置と政党間競争の分析
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki Kubo
2. 発表標題 Analyzing latent dimensionality in Japanese party ideological competition
3. 学会等名 The Annual Meeting of the American Political Science Association, Washington, D.C., August 29 - September 1, 2019.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki Kubo
2. 発表標題 Analyzing latent dimensionality in Japanese party ideological competition
3. 学会等名 The Annual Meeting of the Midwest Political Science Association, Chicago, IL, April 4-7th. 2019.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保浩樹
2. 発表標題 なぜ国会議員は思うことと言うことが違うのか?: 国会議員サーベイと議会での 発言の比較分析
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Royce Carroll, Hiroki Kubo
2. 発表標題 The Sources of Complexity: Measuring and Explaining the Dimensionality of Ideological and Party Perception
3. 学会等名 The Annual Meeting of the Midwest Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroki Kubo
2. 発表標題 Does Intra-District Polarization Cause Party Polarization in Congress?
3. 学会等名 The 25th IPSA World Congress of Political Science (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroki Kubo
2. 発表標題 Explaining Legislators' Ideological Inconsistencies Between Campaign Rhetoric and Legislative Speech
3. 学会等名 The 25th IPSA World Congress of Political Science (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroki Kubo
2. 発表標題 Explaining Legislators' Ideological Inconsistencies Between Campaign Rhetoric and Legislative Speech
3. 学会等名 The Annual Meeting of the American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Royce Carroll, Hiroki Kubo
2. 発表標題 Understanding Ideological Linkages between Parties and Partisans
3. 学会等名 The Annual Meeting of the Midwest Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Royce Carroll, Hiroki Kubo
2. 発表標題 The Sources of Complexity: Measuring and Explaining the Dimensionality of Ideological and Party Perceptions
3. 学会等名 The annual conference of the Elections, Public Opinion and Parties (EPOP) specialist group of the Political Studies Association (PSA), (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Royce Carroll, Hiroki Kubo
2. 発表標題 The Sources of Complexity: Measuring and Explaining the Dimensionality of Ideological and Party Perceptions
3. 学会等名 The Annual Meeting of the Midwest Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Royce Carroll, Hiroki Kubo
2. 発表標題 The Sources of Complexity: Measuring and Explaining the Dimensionality of Ideological and Party Perceptions
3. 学会等名 選挙学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Royce Carroll, Hiroki Kubo
2. 発表標題 Understanding Ideological Linkages between Parties and Partisans
3. 学会等名 比較政治学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考